99/6/1

＊キリスト教学特殊講義１＊＊＊＊＊＊＊　S.Ashina

第一部：キリスト教思想の源流と展開

序論：キリスト教研究に向けて

第1講：聖書－キリスト教思想の源流－

１．正典論　２．啓示

宗教的認識論：何によって宗教的真理を知るのか

宗教思想の学的基盤は何か

神と人間の質的差異：神の言葉によってのみ

バルト：キリストの出来事／聖書／説教

キリストの二重性（両性論）

３．創造

１．基礎的テキスト

＜創世記1～2章＞

1:1 初めに、神は天地を創造された。

1:2 地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。

1:3 神は言われた。「光あれ。」こうして、光があった。

1:4 神は光を見て、良しとされた。神は光と闇を分け、

1:5 光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第一の日である。

1:24 神は言われた。「地は、それぞれの生き物を産み出せ。家畜、這うもの、地の獣をそれぞれに産み出せ。」そのようになった。

1:25 神はそれぞれの地の獣、それぞれの家畜、それぞれの土を這うものを造られた。神はこれを見て、良しとされた。

1:26 神は言われた。「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。」

1:27 神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。

1:28 神は彼らを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」

1:29 神は言われた。「見よ、全地に生える、種を持つ草と種を持つ実をつける木を、すべてあなたたちに与えよう。それがあなたたちの食べ物となる。

1:30 地の獣、空の鳥、地を這うものなど、すべて命あるものにはあらゆる青草を食べさせよう。」そのようになった。

1:31 神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。夕べがあり、朝があった。第六の日である。

2:1 天地万物は完成された。

2:2 第七の日に、神は御自分の仕事を完成され、第七の日に、神は御自分の仕事を離れ、安息なさった。

2:3 この日に神はすべての創造の仕事を離れ、安息なさったので、第七の日を神は祝福し、聖

別された。
2:4 これが天地創造の由来である。主なる神が地と天を造られたとき、
2:5 地上にはまだ野の木も、野の草も生えていなかった。主なる神が地上に雨をお送りにならなかったからである。また土を耕す人もいなかった。
2:6 しかし、水が地下から湧き出て、土の面をすべて潤した。
2:7 主なる神は、土（アダマ）の塵で人（アダム）を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。
2:8 主なる神は、東の方のエデンに園を設け、自ら形づくった人をそこに置かれた。
2:9 主なる神は、見るからに好ましく、食べるに良いものをもたらすあらゆる木を地に生えいでさせ、また園の中央には、命の木と善悪の知識の木を生えいでさせられた。

2．歴史的･文献的問題

(1)宗教史

古代バビロニアの宗教史　「エヌマ･エリシュ」

古代ギリシャの神話論　プラトンの「ティマイオス」

(2)文献

神（エロヒーム）と主（ヤハウェ YHWH）

二つの創造論（とくに人間創造に関して）

↓

二種類の伝承資料の存在：モーセ5書の資料仮説

祭司資料（P）とヤハウェ資料（J）、エロヒーム資料（E）、申命記資料(D)

(3)聖書の聖書学的研究

歴史的文学的文書としての聖書

伝承史

歴史的状況の中での聖書テキストの生成

3．創造論の思想的展開

(1)創造論の基本主張

神の絶対的な主権、存在の善性

(2)「無からの創造」へ

古代キリスト教思想のコンテクスト

悪の問題への解答　cf.　新プラトン主義、マニ教･グノーシス主義

4．現代思想のコンテクスト

(1)キリスト教批判と神学的応答

･理性中心主義、男性中心主義、人間中心主義

･理念とその現実化、そして現実との妥協（？）

(2)神の像とは何か

創造論と現代科学

＜文献＞

1.『総説　旧約聖書』（日本基督教団出版局）　2.『現代聖書講座1，2，3』（〃）
2.並木浩一『旧約聖書における文化と人間』（教文館）
3.芦名定道『宗教学のエッセンス』（北樹出版）